

2014 年度 入学 試験 問題

日本史 B

(試験時間 10:30~11:30 60分)

1. この問題は、入学願書提出時に選択した科目の問題です。科目名を確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙は、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
3. 解答は、必ず解答欄に記入してください。なお、解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。また、折りまげたり、汚したりしないでください。記述解答用紙の下敷きにマーク解答用紙を使用することは絶対にさけてください。
5. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。
6. マーク解答用紙の受験番号および受験番号のマーク記入は、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。

【 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1・問6・問8は記述解答用紙に答えなさい。問2～問5、問7はマーク解答用紙にマークしなさい。(30点)

蒙古襲来のさい、幕府軍を指揮したのは執権北条時宗であるが、時宗は北条氏の家督をつぐ得宗でもあった。時宗の時代、得宗の私的会議であった寄合が^①評定にかわって幕府政治を主導するほど、得宗の力は強まっていた。さらに、得宗家の家来である [1] が幕府政治にも進出し、御家人との対立が激しくなった。時宗の死後、 [1] を代表する内管領の平頼綱と有力御家人安達泰盛が幕府の主導権をめぐって争い、1285年、泰盛らが滅ぼされた。これを [2] という。また、1293年には、九州の訴訟などを裁き、御家人を統括する機関として [3] が設けられたが、そこには北条氏一門が任命された。諸国守護も有力御家人から北条氏一門への交代が行われ、とくに交通の要衝には北条氏の所領がおかれた。このように、時宗の子貞時以降は得宗への権力集中が一層強まり、得宗の絶対的權威のもとに内管領が幕政を主導するようになった。経済的に困窮していた御家人は、幕府に対する不満を増大させていった。

武士の一族は、元来、強い血縁的統制を特徴としており、宗家と分家は一門・一家と名乗り、宗家の長を [4] とあおいでその命にしたがった。分家である庶子には [4] から所領が分け与えられる分割相続が行われた。しかし、新たに所領を獲得することができなくなると、分割相続の繰返しによって所領が細分化されていき、所領を分散させないためにも1人に相続させることが必要となった。鎌倉時代後期ころには、宗家と分家が独立し、それぞれの家のなかでは嫡子が全部の所領を相続する単独相続が行われるようになっていった。女子への所領分割も [5] という一代限りの譲与が多くなった。こうした分割相続から単独相続への変化は、各地の武士団の内部に分裂と対立を引きおこし、後に、南北朝の動乱を拡大、長期化させる一因となった。幕府は御家人の窮乏を救おうとして、1297年にいわゆる永仁の徳政令を^②発布したが、その結果かえって金融の道が閉ざされるようになり、幕府の狙いは実現しなかった。

また、このころ、朝廷では分裂した2つの皇統が交互に天皇につくという [6] の方式がとられていた。大覚寺統から即位した後醍醐天皇は、政治に対して意欲的

あり、かつ自分の子が皇位を継承できないことから、次第に幕府に不満をつのらせ、討幕の計画を進めた。最初の計画は幕府側にもれて失敗し、2度目の計画も幕府に発覚して失敗に終わった^③。しかし、これを契機に楠木正成らの悪党に近い新興の武士たちや、幕府に不満を持つ御家人たちが拳兵するにいたり、さらには足利高氏（のちの尊氏）ら有力御家人もつぎつぎと討幕軍に加わった。六波羅探題が討幕軍に攻め滅ばされたあと、新田義貞が鎌倉に攻め入り、1333年、得宗の北条高時をはじめ北条一門が自害して鎌倉幕府は滅亡した。

後醍醐天皇は京都に戻り、新しい政治をはじめた。これを建武の新政という。後醍醐天皇は、幕府も院政も摂政・関白も否定して、権力の集中をはかり、すべての土地所有権の確認は天皇の^⑤ を必要とするとの趣旨の法令を出した。しかし、現実には天皇の力だけでは治めきれず、中央には記録所や雑訴決断所などを設置し、諸国には国司と守護を併置した。また、東北地方には 将軍府を、関東地方には 将軍府をおいた。天皇中心の新政策は、それまでの武士社会の慣習・道徳^⑥ を無視していたため、多くの武士の不満と抵抗を引きおこした。ひそかに幕府の再建をめざしていた足利尊氏は、1335年、北条高時の子時行が反乱をおこして鎌倉を占領した の乱を機に、その討伐のため関東に下り、新政権に反旗をひるがえした。

問1 文中の空欄 ~ に入るもっとも適切な語を漢字で答えなさい。

問2 下線部①に関する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 鎌倉幕府の政策決定を行う最高機関であった。
- b 執権と評定衆により構成されていた。
- c 裁判は引付で行い、評定では取り扱わなかった。

問3 下線部②に関する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 御家人所領の売買と質入の禁止が定められていた。
- b 金融業者が金銭の貸借をめぐって御家人を訴えることを認めない旨が定められていた。
- c 御家人でないものも、売却して20年を経過していない土地については、これを無償で取り戻すことができる旨が定められていた。

問4 下線部③に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 第1の討幕計画が失敗したときは、後醍醐天皇の責任は不問に付された。
- b 第1の討幕計画の責任をとらされ、計画に加わった日野資朝は配流された。
- c 第2の討幕計画が失敗に終わったのち、後醍醐天皇は隠岐に流された。

問5 下線部④に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 幕府や荘園領主は、支配に反抗し独自の行動をとるものを悪党とよんで鎮圧しようとした。
- b 悪党には武士以外に商工民、荘民なども含まれていた。
- c 悪党の中には城を構え、鎮圧軍に対し丸太を落としたり、つぶてを投げて抵抗するものもいた。

問6 下線部⑤に関連して、後醍醐天皇が理想とした醍醐・村上天皇による親政を何というか。

問7 文中の空欄 と に入る語の組み合わせとしてもっとも適切なものを次のa～fの中から選び、その記号をマークしなさい。

- a A 奥羽 B 関東
- b A 奥羽 B 鎌倉
- c A 陸奥 B 東国
- d A 陸奥 B 鎌倉
- e A 征夷 B 関東
- f A 征夷 B 東国

問8 下線部⑥に関連して、ここにいう武士社会の慣習・道徳に依拠して鎌倉時代の御成敗式目は制定されたといわれる。その当時、この慣習・道徳は何とよばれていたか。漢字で答えなさい。

II 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1・問2・問4・問8・問11は記述解答用紙に答えなさい。問3, 問5～問7, 問9・問10・問12はマーク解答用紙にマークしなさい。(30点)

1600年、豊後に、からの独立を宣言したオランダの船舶が漂着すると、家康は、人で水先案内人のウィリアム＝アダムズや人航海士のヤン＝ヨーステンを外交顧問として厚遇した。1609年にはが、1613年にはが、平戸に商館を設けて貿易をおこなうようになった。家康は、東南アジア各国との和親にもつとめ、大名や商人に朱印状を与えて、これらの諸国との貿易を促した。貿易は活発になり、商品^①を買い付けるために海外に移住する日本人も増え、各地に日本町が生まれるほどであった。

^②1604年、幕府は、京都・・長崎^③の特定の商人に糸割符仲間をつくらせることで、商人による中国産生糸の独占を排除した。莫大な利益がもたらされる貿易には、商人だけでなく、大名や幕府も参加するほどであり、領のメキシコとの通商を望んだ仙台藩主伊達政宗は、家臣のを同地經由で国王およびローマ教皇のもとに派遣した。

1613年にキリスト教禁止令が全国に広げられた後も、宣教師の潜入は後を絶たなかった。そこで、1616年、将軍は、船以外の外国船の寄港地を平戸と長崎に限定した。1624年には、幕府は、キリスト教の布教と密接に結びついた通商活動をおこなっていた船の来港を禁止した。この間、アンボイナ事件をきっかけに、との競争に敗れたは1623年に平戸の商館を閉鎖した。

1630年代に入ると、こうした幕府の動きはさらに加速する。幕府は、1633年、老中奉書を有さない日本船の海外渡航と、海外在住5年以上の日本人の帰国を禁止し、1635年には、日本人の海外渡航と在外日本人の帰国を全面的に禁止したほか、船の寄港地を長崎に限定した。翌1636年には、人は長崎の出島に隔離されることになった。1637年に島原・天草地方で大規模な一揆^④が発生すると、キリスト教への警戒を強めた幕府は、1639年に船の来港を禁止し、1641年には商館を出島に移して、日本人との交流を制限した。ここにいわゆる

鎖国が完成することになる。鎖国ということばは、 人医師ケンペルの著書『日本誌』の一部が「鎖国論」と題して翻訳されたことがはじまりとされる。

もっとも、鎖国が完成した後も、日本は完全に国を閉ざしたわけではなかった。幕府は直轄地である長崎のほかに、朝鮮との関係では対馬藩、琉球との関係では薩摩藩、蝦夷地との関係では松前藩を介して、諸外国や諸民族とのつながりを維持していた。

朝鮮との交流は秀吉の朝鮮出兵から断絶していたが、1609年、対馬藩の宗氏と朝鮮との間でが結ばれると、倭館において、宗氏を介した貿易がおこなわれるようになった。同じく1609年、琉球は、薩摩藩の島津氏の侵攻を受けた後、薩摩藩の支配下におかれるようになった。しかし、中国との争いを避けようとした幕府は、中国に対しては独立国のかたちをとりつづけさせたため、琉球は日本と中国の両国に服属するという複雑な立場におかれた。北方の蝦夷地については、幕府からアイヌとの交易独占権を与えられた松前藩では、特定の地域におけるアイヌとの交易権が知行として家臣に分与されていた。その後、アイヌとの交易は運上金を見返りに商人に委ねられるようになった。18世紀末よりロシア船が来港して通商を求めると、1807年、幕府は、北方防備のために蝦夷地全域を直轄地として松前奉行に支配させた。

問1 文中の空欄～には国名が入る。空欄～のうち、空欄と同じ国名が入るものをすべて選び、その記号を答えなさい。

問2 文中の空欄～に入るもっとも適切な語・人名・地名を漢字で答えなさい。

問3 下線部①につき、朱印船貿易に従事した商人で、高瀬川・富士川などの水路開発に貢献した人物を次のなかから1人選び、その記号をマークしなさい。

- a 今井宗薫 b 河村瑞賢 c 末吉孫左衛門 d 角倉了以
e 茶屋四郎次郎

問4 下線部②につき、アユタヤの日本町の長として活躍したが、リゴール太守に封じられた後に毒殺された人物の氏名を漢字で答えなさい。

問5 下線部③につき、1580年、長崎をイエズス会の教会に寄進した人物を次のなかから1人選び、その記号をマークしなさい。

- a 有馬晴信 b 大友義鎮 c 大村純忠 d 小西行長
e 高山右近

問6 下線部④に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 一揆が発生した当時、島原地方の領主は寺沢氏であり、天草地方の領主は松倉氏であった。
b 幕府は、これを鎮圧するため、オランダの軍事力を借りた。
c 幕府は、これを鎮圧するため、老中松平信綱を派遣した。

問7 下線部⑤に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 秀吉は、朝鮮出兵に際して名護屋に本陣を築いた。
b 日本軍は、李如松を大将とする明の大軍を碧蹄館の戦いで破った。
c 李舜臣は、亀甲船を導入し、朝鮮水軍を率いて日本軍に抵抗した。

問8 下線部⑥につき、木下順庵門下の朱子学者で、対馬藩に仕えて朝鮮との外交を担当し、『交隣提醒』をあらわした人物の氏名を漢字で答えなさい。

問9 下線部⑦につき、これが設置された地を次のなかから1つ選び、その記号をマークしなさい。

- a 開城 b 会寧 c 仁川 d 釜山 e 平壤

問10 下線部⑧につき、このとき琉球を服従させ、奄美三島や与論島を奪って薩摩藩領とした人物を次のなかから1人選び、その記号をマークしなさい。

- a 島津家久 b 島津貴久 c 島津久光 d 島津義久
e 島津義弘

問11 下線部⑨のような制度は何とよばれるか。漢字で答えなさい。

問12 下線部⑩に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a ラクスマンが、大黒屋光太夫を連れて、長崎にあらわれた。
b レザノフが、大黒屋光太夫を連れて、長崎にあらわれた。
c レザノフが、津太夫を連れて、根室にあらわれた。

Ⅲ 次の文章（中村隆英『昭和経済史』から抜粋した文章を改変したもの）を読み、下記の設問に答えなさい。問1・問8は記述解答用紙に答えなさい。問2～問7、問9はマーク解答用紙にマークしなさい。（40点）

① 第1次大戦中のブームを経て、戦争が終って1年後の1920（大正9）年に大変な不景気が起こり、そのあと世界的にも不景気が続いていましたから、当時の日本経済はむしろ沈滞ムードであった。しかしながら、この時期の経済はすでに各種の産業が出そろい、当時代表的だった繊維産業を中心に一流企業の地位がすでに確立している社会だった。

明治以来、昭和の初めにいたるまで日本の最大の輸出品は [1] であった。この [1] が日本最大の輸出品としてとくにアメリカに出て行って、婦人の靴下などに使用されたのです。第2の日本の輸出品は綿織物です。この時期になると、綿糸よりも、綿織物がさかんに輸出されつつあった。

もっとも、経済界全体をみれば、1920（大正9）年の恐慌とその後の不景気をもたらした影響は大変深刻であった。③ つぶれたものも多かったが、つぶれない会社でもこのときの借金をかかえて、青息吐息の状況になった。四大財閥と大紡績会社は堅実な経営で痛手を負わず、他社との差をつけたのです。

④ 金融恐慌が起ったのが1927（昭和2）年です。1927（昭和2）年3月14日、東京の [2] が「とうとう支払不能になりました」と大蔵次官に報告した。片岡蔵相はメモを渡されてこのことを議会で言明した。ところが、その翌日、 [2] は資金ぐりがついて店を開けようとしたが、新聞には片岡発言がのっている。大蔵大臣にああ言われてはとてもだめだということで、店を閉めてしまった。それから取付け騒ぎはいっそう激しくなり、閉店する銀行が増加した。

[3] と台湾銀行の関係も明るみに出てしまった。 [3] の倒産はさけられないとしても、台湾の発券銀行である台湾銀行だけは救済しなければならない。そこで台湾銀行に対して、日本銀行からの貸付で救済することになったのですが、それについて、日銀は政府が損失補償を法的に規定することを求めた。議会の閉会后だったので、政府は [4] の承認をえて緊急勅令で処理しようとしたのですが、 [4] は、これは憲法に規定される緊急の場合ではないから、議会を開いて法律でやるべき

だとして、緊急勅令案を否決してしまった。[5] 内閣はこの責任をとって総辞職しました。

そうなると、[3] は閉店し、台湾銀行はもちろん、その他の銀行にも取付けが殺到します。そのさわぎのなかで、政友会の [6] 内閣ができて、[6] は財政金融のベテラン高橋是清に一時大蔵大臣になってもらって金融恐慌を処理しようとした。

1929 (昭和 4) 年の 7 月に野党であった [7] の浜口雄幸内閣ができた。[7] は、この年 1 月、政綱として、日中国交の改善、翌年に控えていたロンドンにおける軍縮会議の成功、それから国内経済を引き締めて、多年の懸案であった金本位への復帰、金解禁を行うということなどを公表していた。浜口内閣はこの公約をひっさげて登場したのです。そのとき、大蔵大臣になったのが [8] でした。[7] 内閣は [8] 蔵相のもとで金解禁政策を実施することになった。

とにかく金解禁政策が滑りだしたのですが、金解禁政策をとったまさにその瞬間に、世界恐慌の影響が非常にはっきりと出始めた。国内が不景気になって、米価をはじめとする農産物価格がどんどん下がっていくのと同時に、アメリカの不景気で [1] の価格が下がる。国内と海外の双方の不況が農村をおそって、大変な不景気が起った。産業界の不況も激しく、あらゆる産業が大打撃を受けた。

金解禁を行った [7] 内閣が倒れ、その後は憲政の常道ということで、第 2 党であった政友会が総裁犬養毅を首相として組閣をすることになった。犬養はそこで、まず経験も深く、総理大臣の経験もあり、貫禄がある人物として国民の信頼を集めていた高橋是清を大蔵大臣に据えたのです。犬養、齊藤、岡田の三内閣で大蔵大臣をつとめたのが高橋是清です。

問 1 文中の空欄 [1] ~ [8] に入るもっとも適切な語・氏名を漢字で答えなさい。

問2 下線部①に関する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 大戦中に貿易は大幅な輸出超過となったが，1919（大正8）年には輸入超過となった。
- b 猪苗代・東京間の長距離送電の成功もあって，工業原動力が蒸気力から電力へ転換した。
- c 大戦景気により工業は発達したが，大戦末期においてもなお，工業生産額よりも農業生産額の方が上回っていた。

問3 下線部②に関する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 1900年代には，農村ではすでに国産力織機が普及し，綿織物の小工場が発展していた。
- b 第1次世界大戦後の戦争景気にわくアメリカ市場に向けて，綿織物の輸出が激増した。
- c 綿織物の安定的な輸出をもたらしたのは，原料である綿花を国産で安定的に供給できたからである。

問4 下線部③に関する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 大戦後の好景気の反動が欧米で発生し，その影響で日本の株式市場が暴落した。
- b 立憲政友会の積極財政は，この恐慌によって財政的に行き詰まってしまった。
- c 日本労働総同盟は，階級闘争主義から労資協調主義へとしだいに方向を転換して，不況下の労働運動を指導した。

問5 下線部④に関する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 銀行の休業・破綻が続出したため，政府は日本銀行に巨額の融資を行わせて事態の解決を図ろうとした。
- b 日本銀行による巨額の融資によっても台湾銀行を救済することはできなかった。
- c 金融恐慌が鎮静化すると，預金は大銀行に集中し，大銀行による金融支配が強まった。

問6 下線部⑤に関する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 緊急勅令の制定は，宣戦・講和や条約締結などの外交権，統帥権などとともに，天皇大権の1つに数えられる。
- b 最高刑を死刑とする1928（昭和3）年の治安維持法改正は，緊急勅令によって行われた。
- c 緊急勅令は議会の協賛を得ないで天皇が発する法律にかわる命令であるが，次議会で承諾が得られなければ効力を失うものだった。

問7 下線部⑥に関する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a この会議で日本は国際紛争を解決する手段としての戦争を放棄する条約にも調印した。
- b ワシントン海軍軍縮条約で除外された補助艦の保有量が取り決められ，日本の補助艦の総トン数は，対イギリス・アメリカの約7割に制限された。
- c 主力艦については，その保有量の制限と建造禁止をさらに10年間延長するものとした。

問 8 下線部⑦の金解禁政策に関する下記の問いに 120 字で答えなさい。

金解禁を旧平価で実施する場合の問題点を指摘し、旧平価での金解禁に踏み切った理由を書きなさい。

問 9 下線部⑧の人物が行った高橋財政に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 重要産業統制法を制定し、指定産業での不況カルテルの結成を容認した。
- b 大量の公債を発行し、時局匡救事業として政府の公共土木事業を積極的に行った。
- c 重化学工業が軍需と保護政策のもとで飛躍的に発達し、日本の産業構造が軽工業中心から重化学工業中心へと変化した。